

令和7年3月25日

## 【富山県美術館】令和7年度展覧会スケジュールおよび令和6年度新収蔵美術品について

富山県美術館にて、令和7年度に開催される展覧会のスケジュールをご案内します。  
また、新たに取得した収蔵美術品をお知らせします。

### 令和7年度展覧会スケジュール

富山県美術館では、来る令和7年度の展覧会を別紙のスケジュールで開催します。  
展覧会年間スケジュール（パンフレット）は、県内の主な文化施設や教育機関に配布します。  
また、富山県美術館ホームページにも同様の内容を掲載します。

資料1. 令和7年度展覧会スケジュール（PDF：1,962KB）

### 令和6年度取得の新収蔵美術品

令和6年度は、美術品の購入と受贈により77点の作品を取得しました。これらの作品は、コレクション展や、当館で開催する各種企画展で活用してまいります。

資料2. 令和6年度取得の新収蔵美術品リスト（PDF：810KB）



# 2025 → 2026

## 開館時間・休館日

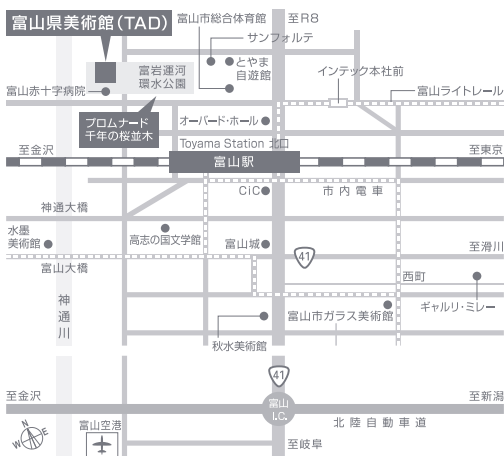
	利用時間	休館日	料金
美術館	9:30 - 18:00	・毎週水曜日 (祝日除く) ・祝日の翌日 ・年末年始	・コレクション展: 一般300円(240円) ※( )内は20人以上の団体料金 ・企画展: 展覧会により異なります。 ・企画展観覧料でコレクション展も ご覧いただけます。
オノマトベの屋上	8:00 - 22:00	12月1日～3月15日	
駐車場	8:00 - 22:30		最初の1時間330円 以降30分毎に110円加算。 ※美術館利用の方、2時間無料 (事前精算機をご利用ください。)

※メンテナンスや展示替え作業等のため臨時休館する場合があります。  
※季節やイベント等に応じて、臨時開館や延長開館する場合があります。

- ・次の方は、コレクション展・企画展ともに観覧無料
  - 1) 児童、生徒(小・中学生、高校生など)
  - 2) 学校教育、社会教育活動としての児童・生徒の引率者(観覧料免除申込書が必要です)
  - 3) 各種手帳をお持ちの障がい者の方の観覧  
(付き添いは手帳をお持ちの方1人につき1名まで無料)
- ・大学生と70歳以上の方は、コレクション展が観覧無料  
(大学生の対象は、大学、大学院、短期大学、高等専門学校(4年以上)、専修学校(専門課程)、  
専修学校(一般課程の19歳以上)、通信制大学、放送大学です)
- ・詳しくは富山県美術館ホームページでご確認いただくか、美術館へお問い合わせください。
- ・ご来館の際は、当館ホームページの「入館時のお願い」をご確認ください。

## アクセス

- 富山駅北口(あいの風とやま鉄道改札側)から  
徒歩約15分 / タクシー 約3分  
バス: 1番のりばより乗車、「富山県美術館」下車すぐ
- 富山空港より………タクシー: 約20分(約9km)
- 北陸自動車道より……自動車: 約15分(富山I.C.から国道41号経由)



## Toyama Prefectural Museum of Art & Design

富山県美術館(TAD)  
展覧会スケジュール  
2025.4 - 2026.3

## 富山県美術館(TAD)

TAD: Toyama Prefectural Museum of Art and Design

※ Toyama Art Design の略文字をとり、TAD と略称しています。

〒930-0806 富山県富山市木場町3-20(富岩運河環水公園内)

TEL: 076-431-2711 FAX: 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>

# スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示室 1	第Ⅳ期 -4/22	コレクション展Ⅰ期 4/24 - 7/21			コレクション展Ⅱ期 7/24 - 10/21			コレクション展Ⅲ期 10/23 - 1/12			コレクション展Ⅳ期 1/15 -	
展示室 2	没後20年 東野芳明と戦後美術	石岡瑛子ーデザイン			国立美術館 コレクション・プラス 7/17-10/28			「デザイナーの冒険」 DESIGN with FOCUS			ハッチボッチ 藤枝リュウジの世界	
展示室 3	-4/6	宮城県美術館 コレクション 絵本の ひみつ展 7/12 - 8/24			ポップ・アート 時代を 変えた 4人 9/6 - 10/26			11/8 - 1/25			2/7-4/中旬	
展示室 4	4/19 - 6/29	7/12 - 8/24			9/6 - 10/26			11/8 - 1/25			2/7-4/中旬	
展示室 5	第Ⅳ期 -4/15	デザイン・コレクション展Ⅰ期 4/17 - 7/21			デザイン・コレクション展Ⅱ期 7/24 - 10/14			デザイン・コレクション展Ⅲ期 10/16 - 1/12			デザイン・コレクション展Ⅳ期 1/15 -	
展示室 6	第Ⅳ期 -4/15	瀧口修造コレクションⅠ期 4/17 - 7/21			瀧口修造コレクションⅡ期 7/24 - 10/14			瀧口修造コレクションⅢ期 10/16 - 1/12			瀧口修造 コレクションⅣ期 1/15 -	
	第Ⅳ期 -4/15	シモン・ゴールドベルク& 山根美代子 コレクションⅠ期 4/17 - 7/21			シモン・ゴールドベルク&山根美代子 コレクションⅡ期 7/24 - 10/14			シモン・ゴールドベルク & 山根美代子 コレクションⅢ期 10/16 - 1/12			シモン・ゴールドベルク & 山根美代子 コレクションⅣ期 1/15 -	
	企画展	コレクション展										

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

まるごとTADこども美術館

# コレクション展

## 2階 展示室1 コレクション

約3か月に1度の展示替えて、自慢のコレクションを多彩に展示。常に新鮮な出会いが楽しめます。

### 国立美術館 コレクション・プラス

2025年度は、7/17～10/28の間、展示室2まで拡張し、国立国際美術館より、バーネット・ニューマン、サイ・トゥオンブリー、パブロ・ピカソの名品を借用、展示します。

特別協力：国立国際美術館、国立アトリサーチセンター

## 3階 展示室5

### デザイン・コレクション

ポスターと椅子を中心としたデザイン・コレクション。国内外のすぐれたポスターとともに、デザイン史に残る名作椅子が並びます。ポスター・コレクションの画像は、大型ディスプレイでも自由に楽しめます。

## 3階 展示室6

### 瀧口修造コレクション

### シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション

富山県出身の美術評論家・瀧口修造の部屋では、ミロやデュシャンなど親交を結んだ作家たちから贈られた作品などが並びます。また、富山を愛し晩年を過ごした天才ヴァイオリニスト、シモン・ゴールドベルクが生前に集めた20世紀の優品を展示します。



パブロ・ピカソ《討かけ椅子の女》1923年  
©2025-Succession Pablo Picasso-BCF(JAPAN)



ジャクソン・ポロック《無題》1946年



《書斎の瀧口修造夫妻》1975年 撮影：大辻清司



倉俣史朗《引出しの家具》1967年  
撮影：柳原良平 ©Kuramata Design Office

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

# 石岡瑛子 | デザイン

2025年4月19日(土) - 6月29日(日)

一般：¥1,500(¥1,300)  
大学生：¥1,000(¥800)  
一般前売り：¥1,300  
※( )内は20名以上の団体料金

広告、舞台、映画など、表現のジャンルを超えて世界的に活躍したデザイナー石岡瑛子(1938-2012)。1961年資生堂に就職、デザイナーとしてのキャリアをスタートさせた石岡は、前田美波里を起用したポスターで意志と自信に満ちた新しい女性像を提示、世間に衝撃を与えました。70年に独立、池袋PARCOを立ち上げて間もない企業バルコとともに、次々と革新的な広告キャンペーンを打ち出します。80年代以降はニューヨークに拠点を移し、名だたる映画監督や音楽家たちと競演、そのデザインは国際的にも高く評価されました。本展では、石岡の原点ともいえる初期の東京時代の仕事を中心に、約500点を一挙公開、彼女の言葉とともに紹介します。一世を風靡したポスターやCMだけでなく、雑誌や教科書からレコードジャケットのデザインに至るまで、石岡瑛子の世界をご堪能いただけます。デジタル化とともに急速に変わりゆく現代にあって、常にトップを走り続け、「I(私)」をつらぬいた石岡。その声と体温を感じてください。



[左]「太陽に愛されよう 資生堂ビューティケイク」資生堂ポスター(1966)  
[右]「西洋は東洋を着こなせるか」PARCOポスター(1979)

宮城県美術館コレクション

# 絵本のひみつ展

2025年7月12日(土) - 8月24日(日)

一般：¥1,100(¥850)  
大学生：¥550(¥420)  
一般前売り：¥850  
※( )内は20名以上の団体料金

宮城県美術館所蔵作品より、月刊絵本「こどものとも」の絵本原画をご紹介します。同館の絵本原画コレクションは、「こどものとも」の初期作品と、そこから絵本出版界に羽ばたいていった作家たちの手による原画を核に形成されています。子どもたちに上質な絵本をとの思いから1956年に創刊された「こどものとも」は、洋画、日本画、漫画、商業デザインなどあらゆる分野に携わる美術家たちが絵を寄せたことで知られ、美術家たちはその新規の舞台で、思い思いの発想で絵を描きました。描き手たちの絵が物語世界を魅力的に膨らませたことはもちろん、表現を支える材料・技法の選択や画面構成といった造形上でも、彼らはまた清新な感覚を発揮しています。本展では、原画の前に立って直に向き合うからこそ見て取れる、手の痕跡や、画材・質感に注目します。絵本に親しんできた方だけでなく、これから絵本の世界にふれるみなさんにとっても、原画に接近して見る体験を通じて、絵に込められた描き手の思考や愛情にふれていただける機会となることでしょう。



林明子《ひよこさん》5-6頁原画 2013年 宮城県美術館蔵

# ポップ・アート

時代を変えた4人

2025年9月6日(土) - 10月26日(日)

一般：¥1,500(¥1,300)  
大学生：¥1,000(¥800)  
一般前売り：¥1,300  
※( )内は20名以上の団体料金

ポップ・アートは、報道写真、商業広告、量販品のパッケージ、著名人のポートレートなど、日常生活にありふれたモチーフやイメージを美術の中に取り入れ、1960年代のアメリカのアートシーンを席巻しました。ロイ・リキテンスタイン(1923-1997)、アンディ・ウォーホル(1928-1987)、ロバート・ラウシェンバーグ(1925-2008)、ジャスパー・ジョーンズ(1930-)はポップ・アートを牽引した作家たちです。彼らは戦争や社会問題が巻き起こっていた激動の時代において、ポピュラー・カルチャーやロック音楽との関わりを通じて、アートと社会の姿を変えていきました。本展はスペイン出身のコレクター、ホセリス・ルベレス氏のコレクションから約120点の版画、ポスター、服飾を展示します。ルベレス氏のコレクションを通して、本展では同じ1960年代に脚光を浴びたザ・ビートルズになぞらえ、リキテンスタイン、ウォーホル、ラウシェンバーグ、ジョーンズの4名を「ザ・ファビュラス・フォー(素晴らしき4人)」と呼び、彼らの作品を中心に、時代を変えたポップ・アートの軌跡をご覧ください。



[左]アンディ・ウォーホル《マリリン》1970年 Joseluis Ruperez Collection  
[右]ロイ・リキテンスタイン《スウィートドリームス・ベイビー》1966年 Joseluis Ruperez Collection  
© 2025 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo G3766  
© Estate of Roy Lichtenstein, New York & JASPAR, Tokyo, 2025 G3766

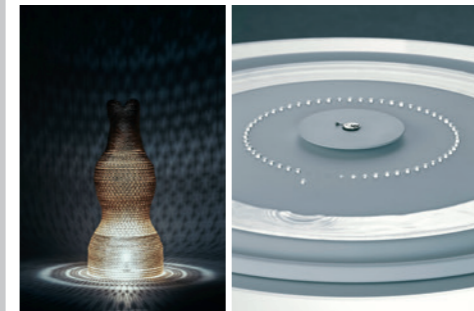
DESIGN with FOCUS

# デザイナーの冒険展

2025年11月8日(土) - 2026年1月25日(日)

一般：¥1,300(1,000)  
大学生：¥650(500)  
一般前売り：¥1,000  
※( )内は20名以上の団体料金

本展はこれからの時代を担うデザイナーやエンジニアの思考(着眼、仮説、実験、デザイン)のプロセスにフォーカスした展覧会です。現代はさまざまな要因が絡み合い複合化しています。その為、これまでのように一人のデザイナーがすべてを担うのが困難な時代になりました。また、AI、プログラミング、化学、エンジニアリングなどの専門家とデザイナーが、コラボレーションを行うリサーチプロジェクトに注目が集まっています。併せて、SDGs、サーキュラーエコノミーといった全人類が取り組まなくてはならない課題にも直面しています。毎年4月に開催される「ミラノデザインウィーク」等で、その動向を知ることが出来ます。こうした最前線の動きを気鋭のクリエイター10組11人の作品をご紹介します。デザイナーの思考の冒険をお楽しみください。参加デザイナーは、後藤則映、進藤 篤、鈴木 舞、高野洋平+森田祥子、氷室友里、本多冴映、松山真也、光井 花、三好賢聖、山本大介



鈴木舞

松山真也

# ハッチポッチ 藤枝リュウジの世界

2026年2月7日(土) - 4月上旬

一般：¥1,100(850)  
大学生：¥550(420)  
一般前売り：¥850  
※( )内は20名以上の団体料金

イラストレーター・アートディレクターとして活躍する藤枝リュウジ(1943-)。1968年、東京藝術大学工芸科を卒業後、サン・アドに入社し、デザイナーとしてのキャリアをスタートします。72年に独立、広告などのアートディレクションを手がける傍ら、イラストレーターとしても活躍。87年、東京「HB Gallery」にて個展を開催、以降継続して新作を発表し好評を得ています。94年、世界ポスタートリエンナーレトヤマ銅賞。96年、アートディレクションを手がけたバベット番組「ハッチポッチステーション」がNHK教育テレビ(現・Eテレ)で放送開始。藤枝のポップなデザインは幅広い年代に親しまれ、その後「クインテット」「フックブックロー」「コレナンデ商会」と四半世紀にわたって続く人気シリーズとなりました。本展は、バベット番組をはじめとしたテレビ・広告などのアートディレクション作品と、個展作品を中心とした絵本・装幀などのイラストレーション作品から、500点以上を紹介する、はじめての大規模展覧会です。藤枝リュウジの「ハッチポッチ」な世界を、ぜひお楽しみください。  
\*ハッチポッチ=hatch potch=ごった煮



[左]「ハッチポッチ」2024年 © Ryuji Fujieda  
[右]東京イラストレーターズ・ソサエティポスター 1992年  
(世界ポスタートリエンナーレトヤマ 1994年 銅賞)

## 令和6年度新収蔵美術品について

令和6年度は、美術品の購入と受贈により77点の作品を取得しました。これらの作品は、コレクション展や、当館で開催する各種企画展などで活用してまいります。

### 1. 美術品の購入（4点）

No.	作家名	生没年	作品名
1	詩：瀧口 修造、 画：阿部 芳文	1903-1979 1913-1971	詩画集『妖精の距離』
2	土屋 仁応	1977-	麒麟
3	村上 早	1992-	きろく
4	〃	〃	はおる

上記、No.2～4は、富山県内在住の個人の方からのご寄附を活用し購入しました。寄附者のご意向を踏まえて、日本の若手・中堅作家（30代～50代）の作品を購入したものです。

### 2. 美術品の受贈（6件、73点）

No.	作家名	生没年	作品名	寄附者
1 ～ 30	金山 康喜、 (ほか1名)	1926-1959	聖ユーレリウスの器 (ほか 全30点)	綿貫 千重子氏
31	倉俣 史朗	1934-1991	スプリングの椅子	小川 安理氏
32 ～ 45	野見山 暁治	1920-2023	(無題) (ほか 全14点)	一般財団法人 野見山暁治財団
46 ～ 50	村上 炳人	1916-1997	天才児 (ほか 全5点)	村上 隆氏
51	安岡 信義	1888-1933	鏡を見遣る後ろ向きの 裸婦	安岡 朗夫氏
52 ～ 73	榎本 和子、 (ほか6名)	1930-	Yellow Function IV (ほか 全22点)	上甲 ミドリ氏

※各作品の詳細は、別紙のとおり



(別紙)

(1) 美術品の購入

No.	作家名	作品名	制作	材質等	サイズ(cm)	参考図版
1	詩：瀧口修造、 画：阿部芳文	詩画集『妖精の距離』	1937年10 月刊行	紙・イン ク(印刷)	30.2× 24.3(48.6) (全12葉)	
2	土屋 仁応	麒麟	2025	樟、彩 色・水晶	53.0 x 46.0 x 16.0	
3	村上 早	きろく	2019	紙・イン ク(銅版 画)	150.0 × 118.0	
4	村上 早	はおる	2024	紙・イン ク(銅版 画)	150.0 × 118.0	

1. 詩：瀧口修造、画：阿部芳文 詩画集『妖精の距離』

詩人で美術評論家の瀧口修造の初めての詩画集で、12編の瀧口の詩と画家・阿部芳文(展也)の画からなる印刷物。刊行後の1951年には、瀧口が深く関わったタケミヤ画廊での、阿部の個展に本詩画集が出品される。今回取得の『妖精の距離』は、100部限定で刊行されたうちの52番。



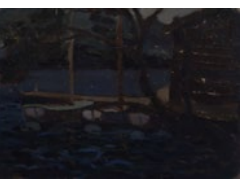




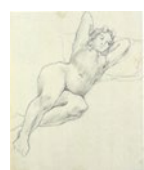

2. 土屋仁応《麒麟》











作家は1977年神奈川県出身。神話上の動物などをモチーフとした細密な木彫を得意とし、全国各地の美術館の現代美術展に出品する気鋭の作家。2018年に第9回円空大賞展にて円空賞を受賞。取得作品は、作家が富山県内を訪れ、井波等の木彫文化に触れて制作したもの。

3. 4. 村上 早《きろく》、《はおる》






1992年群馬県生まれ。武蔵野美術大学在学中から公募展で受賞を重ね、早くから高い評価を受けてきた作家。取得作品の1点《きろく》は、山本鼎版画大賞を受賞し注目を集めた2019年上田市美術館での個展出品作で、もう1点は最新作《はおる》。国内でも数少ない大型プレス機を使用した大型の銅版画作品で、作者が「子供の絵」を目指していると語るように、太くのびやかな線で、大柄なイメージが表されている。

(2) 美術品の受贈



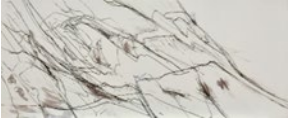
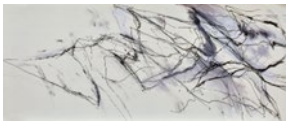






No.	作家名	作品名	制作	材質等	サイズ(cm)	参考図版
1	金山 康喜	佐渡島相川の教会	1943 年	板・油絵具	24.1×33.0	
2	金山 康喜	野尻湖風景	1943 年	板・油絵具	15.5×22.5	
3	金山 康喜	野尻湖風景	1943 年	板・油絵具	24.0×33.0	
4	金山 康喜	ヴァイオリンを弾く自画像	1943 年 ～ 45 年 頃	板・油絵具	33.2×24.0	
5	金山 康喜	イーゼルの前の自画像	1945 年 ～47 年	キャンバス・油絵具	65.3×53.2	
6	金山 康喜	山間の風景	1940 年 代後半	紙、鉛筆、 水彩	20.8×26.6	
7	金山 康喜	裸婦（横向き）	1948 年 ～ 50 年 頃	紙・鉛筆	26.6×20.8	
8	金山 康喜	裸婦（仰向け）	1948 年 ～ 50 年 頃	紙・鉛筆	26.6×20.8	
9	金山 康喜	裸婦（正面）	1948 年 ～ 50 年 頃	紙・鉛筆	35.8×26.6	

10	金山 康喜	裸婦(横臥)	1948 年 ～ 50 年 頃	紙・コン テ	26.6×35.8	
11	金山 康喜	座ってポーズをとる女	1948 年 ～ 50 年 頃	紙・コン テ	26.6×35.8	
12	金山 康喜	腕組みをして座る男	1948 年 ～ 50 年 頃	紙・コン テ	38.5×27	
13	金山 康喜	背広を着た自画像	1948 年 ～ 50 年 頃	キャンバ ス・油絵 具	72.5×60.5	
14	金山 康喜	聖ユーレリウスの器	1949 年	キャンバ ス・油絵 具	65.1×80.0	
15	金山 康喜	聖ユーレリウスの器 (1)	1949 年	キャンバ ス・油絵 具	73.0×91.0	
16	金山 康喜	聖ヘレニウスの時計	1950 年	キャンバ ス・油絵 具	80.0 × 116.3	
17	金山 康喜	静物 [眼鏡のある静物]	1949 年 頃	キャンバ ス・油絵 具	61.0×45.1	
18	金山 康喜	パリの風景	1951 年	紙・イン ク、パス テル、水 彩	35.7×25.4	
19	金山 康喜	パリの風景	1951 年	紙・イン ク、パス テル、水 彩	25.4×35.6	













20	金山 康喜	女・A	1952 年	紙・インク	35.5×25.3	
21	金山 康喜	男の顔	1952 年	紙・インク	37.0×26.5	
22	金山 康喜	女の顔	1952 年	紙・インク、パステル	37.0×26.5	
23	金山 康喜	南仏コリウールの風景	1953 年	紙・色鉛筆	21.0×26.2	
24	金山 康喜	南仏コリウールの風景	1953 年	紙・色鉛筆	21.0×26.2	
25	金山 康喜	南仏コリウールの風景	1953 年	紙・色鉛筆	21.0×26.2	
26	金山 康喜	南仏コリウール 小船 BALVIR	1953 年	紙・インク、水彩	21.0×26.2	
27	金山 康喜	南仏コリウールの風景	1953 年	紙・色鉛筆	20.8×26.8	
28	金山 康喜	静物 [手袋のある静物]	1953 年	キャンバス・油絵具	50.0×65.2	
29	金山 康喜	フレスコ画「死の舞踏」模写	制作年不詳	紙・インク、水彩	28.7×41.2	





30	古茂田 守介	金山康喜の像	1940 年代後半	紙・インク	26.6×20.5	
31	倉俣 史朗	スプリングの椅子	1968 年	スチールパイプ・布	40×39.5×39.5	
32	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	38.0×56.6	
33	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	37.4×56.4	
34	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	36.6×54.5	
35	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	39.0×57.0	
36	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	38.3×56.6	
37	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	41.2×56.2	
38	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	44.6×56.7	
39	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	56.5×76.3	
40	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	44.7 × 109.2	

41	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	109.3 × 44.5	
42	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	109.1 × 44.5	
43	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	44.8 × 109.5	
44	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	44.5 × 109.5	
45	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	44.5 × 109.3	
46	村上 炳人	天才児	1960 年 代	木	44.5 × 30.1 × 15.0	
47	村上 炳人	父と子	1970 年 代	木	86.0 × 21.5 × 19.5	
48	村上 炳人	いらつめ	1986 年	木	80.0 × 38.0 × 33. + 台 座	
49	村上 炳人	デリーで会 った少女	1989 年	木、着色	55.0 × 30.0 × 28.0	
50	村上 炳人	シェフ	1990 年 代	ブロンズ	59.0 × 21.0 × 21.0	

51	安岡 信義	鏡を見遣る 後ろ向きの 裸婦	1913 年	キャンバ ス・油絵 具	80.5×60.5	
52	榎本 和子	Yellow Function IV	1981 年	紙・アク リル絵具	48.0×38.0	
53	榎本 和子	無心のゲー ムⅡ	1988 年	紙・アク リル絵具	65.0×50.0	
54	榎本 和子	黄金比の八 面体	1998 年	クリスタ ルガラス	10.7×9.7 ×9.7	
55	榎本 和子	稜辺の八面 体	1998 年	鉄	22×19.5× 19.5	
56	北川 民次	メキシコの 女	1956 年	紙・リト グラフ	38.5×29.0	
57	北川 民次	音楽家たち	1958 年	紙・リト グラフ	55.5×36.5	
58	小林 ドンゲ	香猫早春	1984 年	紙・エン グレーヴ ィング、 アクワチ ント、ソ フトグラ ンドエッ チング	32.3×23.5	
59	小林 ドンゲ	薔薇・時間 のために	1989 年	紙・エン グレーヴ ィング、 アクワチ ント	32.3×23.5	

60	駒井 哲郎	海底の祭	1951 年	紙、メゾ チント、 ソフトグ ランド・ エッチン グ	23.8×17.1	
61	駒井 哲郎	仏国風景	1954 年	紙・ビュ ラン	9.7×6.9	
62	駒井 哲郎	教会の横	1955 年	紙・ビュ ラン、ベ ルソー	15.8×11.7	
63	駒井 哲郎	樹木	1958 年	紙・エッ チング	23.3×21.0	
64	駒井 哲郎	[賀状]	1958 年	紙・エッ チング	12.1×17.8	
65	駒井 哲郎	[賀状]	1959 年	紙・エッ チング	12.0×18.0	
66	駒井 哲郎	Aout Les Morts(黒い 梟)	1960 年	紙・アク ワチント	25.2×41.5	
67	駒井 哲郎	残像	1968 年	紙・エッ チング	26.3×18.1	
68	駒井 哲郎	囚人	1969 年	紙・エッ チング	25.6×17.8	
69	駒井 哲郎	二樹	1970 年	紙・エッ チング	24.3×16.9	



70	瀧口 修造	[バート ドローイング]	1962 年	紙・バ ートド ロイング	27.0×19.0	
71	瀧口 修造	[デカルコ マニー]	1969 年	紙・デカ ルコマ ニー	17.5×11.5	
72	中川 幸夫	(無題)	(不詳)	紙・水彩	18.0×22.9 2点組	
73	浜口 陽三	西瓜	1955 年	紙・カラ ーメゾ チント	8.5×13.4	

#### 1～30. 金山康喜 ほか

金山康喜は、旧制富山高校時代に美術に傾倒するも東京帝大経済学部に進み、パリ留学中に公募展に入選するなどして画家に転身したという異色の経歴を持つ。33歳で急逝したが、その詩情溢れる静謐な作品は高く評価されている。初期の油彩やデッサンから、貴重な渡仏期の作品まで、画家の生涯をたどることができる作品群の一括寄贈を受けた。

30. 《金山康喜の像》の作者、小茂田守介（1918－1960、愛媛県生まれ）は、金山康喜と同時代に猪熊弦一郎に師事した画家である。

#### 31. 倉俣史朗

倉俣史朗は、1960年代から主に家具やインテリア、空間デザイン等の分野で斬新な作品を発表。フランス文化省芸術文化勲章を受章し、没後まもなく国際巡回展が組織されるなど国内外で評価。没後30年を経てなお国際的に関心を集める日本を代表するデザイナーの一人で、2024年に当館でも個展を開催した。本作は最初期のデザインで重力からの解放というコンセプトがユーモラスに具現化された椅子である。

#### 32～45. 野見山暁治

戦後日本を代表する洋画家の一人で、東京藝術大学で長く後進を指導した文化勲章受章者。瀧口修造や金山康喜との縁もあり、旧近代美術館時代から個展等を開催し、油彩画を所蔵している。作家が2023年に逝去したことに伴い、作品を管理する財団より、これまで所蔵がなかった水彩画について寄贈があったもの。

46～50. 村上炳人

高岡市生まれ。富山県立工芸学校（現・富山県立高岡工芸高等学校）工芸彫刻科を卒業し、京都を拠点として院展や二紀会で全国的に活躍した。平櫛田中ひらぐしでんちゅうの系譜に位置する具象木彫家であるが抽象表現でも秀でた作品を残した。富山県を代表する彫刻家の一人であり、今回初めて収蔵するもの。

51. 安岡信義

東京美術学校図画師範科の第一期生。1920年に富山県師範学校に着任。亡くなるまで県内で教鞭をとるとともに、創作活動を行った。富山県下の図画教師による「県美育協会」を結成し、美術教育に関する研究会や展覧会を開催した。富山県の洋画史の黎明期を語る上で欠かすことのできない画家のひとりであるが、早世のため作例は多くない。本作は、当時は珍しい裸婦を描いた作品であり、当時の時代背景とともに検証できる作品である。

52～73. 榎本和子 ほか、全7作家の22点

- ・ 榎本和子（1930－、兵庫県生まれ）／絵画2点、オブジェ2点
- ・ 北川民次（1894－1989、静岡県生まれ）／版画2点
- ・ 小林ドンゲ（1926－2022、東京都生まれ）／版画2点
- ・ 駒井哲郎（1920－1976、東京都生まれ）／版画10点
- ・ 瀧口修造（1903－1979、富山県生まれ）／水彩2点
- ・ 中川幸夫（1918－2012、香川県生まれ）／水彩2点組で1点
- ・ 浜口陽三（1909－2000、和歌山県生まれ）／版画1点

戦後、美術出版社で雑誌『美術手帖』等の編集に携わり、数多くの芸術家・美術評論家と交友があった上甲ミドリ氏（1925年生まれ）から、所蔵品寄贈の申し出があったもの。瀧口修造の作品をはじめ、戦後日本美術を概観する際に当館コレクションを補完する作品。

以上